

伯国初の平和資料館が落成

ラーモス移住地に威風堂々

小川和己さん「百聞は一見にしかず」

サンタカタリーナ州、ラーモス移住地にある「平和の鐘公園」内に、ブラジル初の平和資料館が完成し、14日に落成式が挙行された。斉藤準一空軍最高司令官、イデリ・サウパッチ上院議員、エスピリジオン・アミン元同州知事、佐藤宗一クリチバ総領事ら、約300人が出席。多くのメディア関係者も訪れた。同館設立に尽力した被爆者の小川和己さん(81、長崎市)は、「この核兵器のない平和な国、ブラジルから、核の完全廃絶を呼びかけたい」と宣言した。



開場セレモニーで記念撮影をする列席者。アミン夫妻と被爆者の小川夫婦と小川和己さん、サウファッチ上院議員ら



館内の様子

同資料館は小川さんが建設を進める「平和の鐘公園」の第二期工事としてできた。長崎県からの写真パネル80点を展示。近隣にある公立学校の平和の場としても活用される。

420平米の1階建て。総工費は約50万レアルのうち30万レアルは連邦貯蓄銀行の支援を受けた。小川さんが代表を務める現地の長崎原爆被爆者らでつくる「被爆者の子孫の会」と、フレイ・ロジェリオ市の共催で行われた式に先立ち、公園内の「平和の鐘」が打ち鳴らされた。

小川さんは、「百聞は一見にしかず。世界の恒久平和の声をブラジルから発信したい」と話し、大きな拍手が会場から送られた。その後、テープカットが行われ、資料館が公開された。訪問者らは、写真パネルの展示、小川さんのインタビュー映像などに見入っていた。聖州ソロカバから参加した和田一男さん(85、二世)は「ブラジルに生れ、新聞などでしか原爆を知らなかった。実際に被爆者の写真を見たのは始めて。原爆、戦争のない世界になって欲しい」と感想を述べた。その後、同文協の会館で祝賀会が行われ、ラーモス自慢の剣道、太鼓のデモンストレーションがあった。小川さんはニッケイの取材に「平和こそ人が求めている事。これからも皆と活動を続けていきたい」と思いを新たにしていた。